

第5学年 国語（書写）

第5学年の学習到達目標

- (1) 文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書く。
- (2) 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書く。
- (3) 毛筆を使用して、字配りよく書く。

第5学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	①毛筆のしせい ・学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ●毛筆の姿勢・筆の持ち方を確認する。 ●学習の進め方を考える。 ●既習の筆使いについて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の姿勢・筆の持ち方 ○書写学習の進め方 ○既習の筆使い
	②点画のつながり〈旅〉	<ul style="list-style-type: none"> ●「旅」の点画のつながりを理解する。 ●硬筆で、点画のつながりに注意して、字形を整えて書く。 ●点画のつながりと書く速さの関連を理解する。 ●速く書く場面があることを理解する。 ●書く場合に許容される形があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「旅」の点画のつながり方 【字形の整え方】点画のつながり方 ○小筆で「春夏秋冬」を書く。
	③筆順と字形〈必要〉	<ul style="list-style-type: none"> ●「必」「要」の筆順と画の間隔を理解する。 ●既習事項にも注意して、「必要」を整えて書く。 ●硬筆で、画の間隔に注意して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【字形の整え方】（毛筆）筆順と字形（画の間隔） ○【字形の整え方】（硬筆）画の間隔（「横画」「縦画」「左払い」「点」）
	☆インタビューをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ●場面に応じて書く速さの使い分けをすることを理解する。 ●既習事項を生かして、読みやすく書く。 	○手紙とメモの書き方
後期	④文字の大きさ〈山道〉	<ul style="list-style-type: none"> ●「山」「道」の画数に応じて文字の大きさを変えて書くことを理解する。 ●「しんじょう」の書き方を理解する。 ●毛筆の学習を生かして、文字の大きさについて硬筆で学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【字配り・配列】文字の大きさ ○「しんじょう」の書き方
	⑤点画のつながり （ひらがな）〈きずな〉	<ul style="list-style-type: none"> ●平仮名の点画のつながりや、穂先の動きを理解する。 ●平仮名の「結び」の筆使いを理解する。 ●既習事項にも注意して、「きずな」を整えて書く。 ●硬筆で、平仮名の点画のつながりに注意して、字形を整えて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名の、点画から次の点画へ移るときの穂先の動きや向き ○【字形の整え方】点画のつながり（平仮名） ○【筆使い】平仮名の「結び」
	⑥用紙と文字の大きさ 〈花さく町〉	<ul style="list-style-type: none"> ●用紙に対する文字の大きさを理解している ●字配り・配列について理解する。 ●毛筆の学習を生かして、用紙と文字の大きさについて硬筆で学習する。 ●行の書きだしと終わりの位置を理解している。 ●行に対して適切な文字の大きさを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【字配り・配列】上下・左右の余白 ○【配列】文字の大きさ、行の書きだしと終わりの位置、上下・左右の余白、字間
	☆横書き	<ul style="list-style-type: none"> ●行の書き出しと終わりの位置を理解する。 ●文字の大きさと字間に注意して、横の行を整えて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行の書き出しと終わりの位置、字間を理解する。 ○【配列】行の書き出しの位置、文字の大きさ、字間、横書き
	☆書きぞめをしよう 〈出発〉	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項を生かして書き初めをする。 ●小筆の持ち方や使い方を確認し、名前を丁寧に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を生かした書き初め ○小筆の持ち方や使い方、書き初め用紙に書く場合の姿勢

⑦まとめ（星ふる夜）	<ul style="list-style-type: none"> ●5年で学習したことをまとめる。 ●自分の目当てを持って学習する。 ●自分の目当てに対して、自己評価をする。 ●相互評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○5年で学習したことのまとめ ○【筆使い】平仮名の「結び」 ○【字形の整え方】点画のつながり、筆順と字形 ○【字配り・配列】文字の大きさ、行の書き出しと終わりの位置、上下・左右の余白、字間 ○自己・相互評価
☆パンフレットを作る	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な筆記具を選択している。 ●折れ線グラフの書き方を理解している。 	○既習事項を生かして、委員会のポスターを丁寧に書く。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 文字に対する関心を持ち、自分の課題に沿って活動を振り返り、そこからさらに新しい課題を見つけ、自己批評しながら学習している。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 書写では文字の形、大きさ、配列、毛筆では、点画の筆使い、文字の組立て方、字配りなどを理解して文字を正しく書いたりしている。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>① 書き上がった作品だけでなく、学習に取り組む態度、発言、自己評価、相互評価など、多面的に評価します。</p> <p>② 自分の良さを生かしたり、お互いの良さを認め合ったりしながら学習を深めることができるように、自己評価・相互評価も取り入れます。</p> <p>③ よい子のあゆみでは、国語科の「主な観点と達成の様子」の中に到達度で示します。</p>
---	---

特色ある学習方法

<p>(1) 児童が主体的に学習を進められるよう、意欲を持たせるための工夫をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を見つけ、課題に適した学習方法（練習用紙・練習方法）を選択したり、学習形態を工夫したりします。 ・学ぶ喜びを味わえるように、学習の始めに書いたものと学習後に書いたものを比べ、学習の成果を確認します。 ・作品を掲示することにより、自分や友達の作品の良さを認め合います。 <p>(2) 毛筆で、細部まで確かめながら大きく文字を書いていくことにより、硬筆では理解されにくい部分や書き方を意識させることができます。日常生活における書写力向上のためにも、毛筆と硬筆を関連させて指導していきます。</p> <p>(3) 書写学習を生活に生きる学習にするために、横書きや箇条書き、手紙文など、生活の中や他教科の学習で扱う書式や内容も取り入れています。</p>

使用教材等

<ul style="list-style-type: none"> ○教科書 「新しい書写 5年」（東京書籍） ○硬筆の学習…書き方ノート、鉛筆（HB～2B位が適当）、下敷き、消しゴム、フェルトペン、赤鉛筆 ○毛筆の学習…大筆、小筆、墨液、硯、下敷き、文鎮（できれば2つ） <p>このほかにも、ぞうきん、新聞つづり（新聞紙1/4をノート状にホッチキスでとめたもの）も用意させてください。書きあがった作品の処理・後片付けなどに使います。</p>

留意事項

<p>(1) 用具の取り扱いや手入れの仕方については学校でも指導しますが、ご家庭でも声かけをお願いします。学習が終わった日に、自分で用具の手入れをする習慣をつけることが大切です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硯…水でよく洗います。 ・大筆…水洗いをし、水気を取り穂先をそろえておきます。小筆は水洗いせず穂先を整えるだけにします。 ・下敷き…しわにならないように気をつけてしまいます。 ・新聞つづり…作品を取り出しておきます。汚れが多いときは新しく作ります。 <p>(2) 持ち帰った作品（一番良く書けた作品は教室に掲示）を見られましたら、気をつけたことやうまくいったことなどを聞いて、良い点をほめてあげてください。</p>
